

大阪工業大学 ロボティクス&デザイン工学研究科 ロボティクス&デザイン工学専攻
博士後期課程 学位論文審査基準
(課程博士)

(審査の体制・方法)

- 1 博士論文の審査および最終試験は、研究科委員会が選出する審査委員が行う。
- 2 審査委員は、当該論文に関連ある後期課程の授業科目担当の教授のうちから研究科委員会において3名以上選出するものとし、うち1名が主査となる。ただし、必要のあるときは、大学院の他の教員をこれに充てることができる。
- 3 博士論文の審査に当たっては、他の大学院または研究所等の教員等の協力を得ることができる。
- 4 博士の学位に関する最終試験は、博士論文を中心に、その研究成果を確認する目的をもって口頭試問によって行う。
- 5 研究科委員会は、審査委員がまとめた審査報告書にもとづいて最終試験の可否について審議する。

(学位論文受理に求める研究業績)

査読付学術論文を3篇以上有し、かつ、以下(1)から(3)すべてを満たしていること。

- (1) 全篇ファーストオーサーであること。
- (2) この内、英文論文1篇を含むこと。
- (3) この内、権威ある学術雑誌に掲載された論文1篇を含むこと。

[留意事項]

- ・ (2) と (3) は兼ねることができるものとする。
- ・ 論文提出時、査読中論文は対象外とする。
ただし、修正を条件に掲載が確定している場合は可とする。

(審査項目・基準)

下記項目をすべて満たした学位論文を合格とする。

審査項目	審査基準 (満たすべき水準)
1) 論文テーマの妥当性	研究目的が明確で学術的・社会的意義を有すること。
2) 研究方法の妥当性	目的達成のため、適切な研究方法を実践していること。
3) 独創性 (新規性)	テーマの設定、研究方法、結論等において、未知の事象・事物の発見や新たな見解を示していること。
4) 有用性	得られた知見が関連する分野の学術的・技術的発展に貢献していること。
5) 信頼性	論旨の展開が明確で内容に本質的な誤りがなく、既存研究に対する位置づけが明らかにされていること。
6) 完成度	学術論文としての体裁が整っていること。

大阪工業大学 ロボティクス&デザイン工学研究科 ロボティクス&デザイン工学専攻
 博士後期課程 学位論文審査基準
 (論文博士)

(審査の体制・方法)

- 1 論文提出による博士の学位申請を受理後に実施する学力の確認は、学位申請者の研究分野に関係のある授業科目の担当教授3名以上の委員により行い、うち1名が主査となる。
- 2 学力の確認は、原則として筆答または口答による試問によって行う。ただし、学位申請者の学歴、研究業績などによって確認を行う場合には、学力の確認のための試問を省略することができる。
- 3 研究科委員会は、第1項の委員の報告にもとづいて学力の確認を決定する。
- 4 博士論文の審査および最終試験は、研究科委員会が選出する審査委員が行う。
- 5 審査委員は、当該論文に関連ある後期課程の授業科目担当の教授のうちから研究科委員会において3名以上選出するものとし、うち1名が主査となる。ただし、必要のあるときは、大学院の他の教員をこれに充てることができる。
- 6 博士論文の審査に当たっては、他の大学院または研究所等の教員等の協力を得ることができる。
- 7 博士の学位に関する最終試験は、博士論文を中心に、その研究成果を確認する目的をもって口頭試問によって行う。
- 8 研究科委員会は、審査委員がまとめた審査報告書にもとづいて最終試験の可否について審議する。

(学位論文受理に求める研究業績)

査読付学術論文を4篇以上有し、かつ、以下(1)から(3)すべてを満たしていること。

- (1) 全篇ファーストオーサーであること。
- (2) この内、英文論文1篇を含むこと。
- (3) この内、権威ある学術雑誌に掲載された論文1篇を含むこと。

[留意事項]

- ・ (2) と (3) は兼ねることができるものとする。
- ・ 論文提出時、査読中論文は対象外とする。
 ただし、修正を条件に掲載が確定している場合は可とする。

(審査項目・基準)

下記項目をすべて満たした学位論文を合格とする。

審査項目	審査基準 (満たすべき水準)
1) 論文テーマの妥当性	研究目的が明確で学術的・社会的意義を有すること。
2) 研究方法の妥当性	目的達成のため、適切な研究方法を実践していること。
3) 独創性 (新規性)	テーマの設定、研究方法、結論等において、未知の事象・事物の発見や新たな見解を示していること。
4) 有用性	得られた知見が関連する分野の学術的・技術的發展に貢献していること。
5) 信頼性	論旨の展開が明確で内容に本質的な誤りがなく、既存研究に対する位置づけが明らかにされていること。
6) 完成度	学術論文としての体裁が整っていること。